令和８年度 第２回たかつコミュニティスクール 議事録	
日　　時	令和８年 8 月 27 日（木） ９時 30 分～11 時 30 分
場　　所	神奈川県立高津支援学校 食堂
出　　席	学校運営協議会委員 10 名 事務局 12 名
問合せ先	副校長　古川　玉緒　　電話 044-865-4921（直通）

１学校長あいさつ

- 夏休みにオフィス改善があり、教職員の職場環境の改善があり空間が広がった。（写真で紹介）
- この後各部会での話があると思うが色々と意見をだしてほしい。

２会長あいさつ

- 夏休みが終わるにあたり、児童生徒は充実した夏休みを送っているかと思う、保護者はホッとしてるのではないか。教職員は気力・知識・体力を十分に蓄えたところかと思う。
- 児童生徒のちょっとした事情に耳を傾けることが大事。
- 各部会でご意見を遠慮なくだしてほしい。

３まなび・あんぜん・あそび部会について（●委員より ○事務局より）

○部会での協議について

- 昨年度と同じグループの区分で協議
- 今年度の学校の方向性について確認（パワポ資料）
- 各部会での協議のテーマの確認。これに沿って協議をしてほしい。（パワポ資料）
- まなび：子供が自ら学びを進められる環境、自から学習に取り組もうとするにはどうしたら良いか
- あんぜん：日常の安全安心、災害時の対応について、日常での怪我にならないためになど
- あそび：秋の遊び場、昼の遊び場、子どもと教員、地域でどのようなことができるか。
  地域の協力を頂きたい。
- 模造紙に意見を集約して進める
- 何か質問はあるか（●）
- 先生たちに向けた意見や地域住民に向けた意見もあり

○各部会ごと

- 部会ごとの記録は模造紙参照

4 部会の報告

①まなび

・「子どもが自分で学びを進める」をキーワードに進めた
・ 教員は環境の一つとしてふるまうことが大切
・ 安心できる居場所があるとよい
・ 教員が笑顔になると生徒も笑顔になる
・ 教員が柔軟なものさしをもって受け入れ、否定しないことが自信につながる
・ 選ぶ力が育つことで自己選択につながり自立・社会参加へつながる
・ 見通しが持てるために物理的な整理整頓も大事で、認知が育つ、できた、終わったにつながる
・ いろいろな意見がリンクしており、全部の要素が大事であるということが分かった

②あんぜん

・ 安全＝安心
・ まずは「知ってもらう」ことが大事（家庭地域のつながり、小学校での避難所設営、地域のお祭りなどに参加、何か起きたときに声をかけやすくなる
・ 学校での防災教育を家庭でも行うとよい
・ 幅を広げることが大事（安心グッズ、環境、食事など）
・ 人とのかかわりを大事にすること（スマホなどに頼らず）で大人を頼ることができるようになる

③あそび

・ 地域の教育力の活用
・ 地域資源を使った活動（昔遊びを学ぶ、応急処理講習、落ち葉拾いなど）
・ 地域には畑も多く農作業の協力をお願いできると良い。子どもと一緒に学校で活動するなど。
・ 学校主催のボッチャ大会などスポーツなどイベントを通して地域とつながっていく。
・ 行政とからめたイベントも行うなどしていけると良い（公園も借りれる）
・ こどもが地域に出ていく活動（ゴミ拾いやベルマークを置かせてもらうなど）
・ 教育課程として定期的に位置づける、
・ トレーディングカード（地域の店などで）をもらえるというような地域に根付いたものでだれでも行ける場所づくり
・ 卒業してからも地域とかかわれるようなつながりがあると良い

○**質疑応答**（●委員より　○事務局より）

● たくさんの意見が出て学校運営の夢が広がったのではないか。どこを一番優先順位にするかを考えて実現させてほしい。何か手伝えることがあれば協力する。この後引き取り訓練のため退席

● 工程表を作成していく。高津運営のロードマップづくり

● まなびの教員が楽しむことも大事だがプレッシャーかからないのか。肯定的にすべてを受け入れなければいけないというプレッシャーもあるのではという点は心配。

● 先週の研修では教員同士が仲が良いという意見が出てきたところが高津の良いところなので大丈夫かなと思っている。

肯定的な受け入れについては、塾などとは違い、学校では多様な価値観で成り立っており、多様な価値観で受け入れる。

● 知ってもらうと言ったが本来は家庭でイベントに参加していきたい。そのような子がいると声をかけやすい、そういう子がいると思ってもらいたい。学校でもやってもらいたい。

スタンプラリーなどでたかつの子が来たということが分かると良い、普段の様子を知ってもらえる。

● 娘が野川にいて一輪車競技をやっているが、世界大会銀メダル

「自分にあった」学力やあそびが大事だと思う。

● 孫が発達障害　周りの目が痛いと言っている。わがままな子に見えてしまう。

学校に一般の人に来てもらい知ってもらう場を作ってもらいたい。

地域の人に知ってもらう。

● 松木さんのスタンプラリーは実現しやすいのではないか。親からすると子供を連れて行くところがなかなかない。こんなところに行って良いんだという場所があると良いどんどん広げられるとよい。

美容室、歯医者、病院など色々な業界に広がると良い。

教員だけにお願いすることは難しいと思うのでいろいろなところが関連して進められると良い。

● 「知ってもらう」を事業として受けている。こども 110 番の障害者版を考えている。

障害者について小学校、中学校で講演することがある。自分ごとに捉えてくれたり、障害者が身近になってきている。しかしそのことを相談したり話したりする場所がない。

訪問で美容師に来てもらっている状況。

病院まで連れていくのも大変、健康診断（採血）

あんぜん　ヒヤリハットをだしてもらい、大きい事故を予防していこうと取り組んでいる。

施設では人が変わるが学校は毎年新しい児童生徒が入ってくるが学校での工夫は何かあるか。

○ 書式をもとに対策、経過をまとめている。子どもの入れ替えがあるが、年度当初などに個人ファイルなどで引継ぎしている。またいろいろなケースを積み上げていっている。

● 訪問レントゲンがある

● あんぜん　ハザードマップを使って生徒の家はどうなのかを学ぶ機会はあるのか。
● ご家庭で危険な場所を確認して持ち寄って上げていくと良いのでは。
● 小杉までは津波がくるだろう、このあたりの川も水位があがることを想定している。
● 学校などでは２階に受付や避難所を設置している。
○ 学校近辺のハザードマップを使って学びは行っているがご家庭のところまでは至っていないので検討してもよいかと思う。分教室でも自分の地域を知ったり地震について学んだりしている。
● 家庭の状況によっては、災害時に帰してもよいのかという視点もあっても良いと思う
● 生徒の自宅をハザードマップにプロットしてもよいのでは
● 3.11 の時大変だった。ある程度想定しておくことで支援ができるのかもしれない

● このあたりでは緑が丘霊園のあたりに避難するようになっている、準備はしているようだ。高台に逃げることが大事。
● 情報と想定が大事

● あんぜん　キーワードは「知ってもらう」ことだと思うが、すごく難しいことではある。毎年具体策がなく進んでいない感じがしている。ぜひ優先順位をつけて「知ってもらう」具体策を。

５学校長あいさつ

・ 実りのある協議ができたと思う。
・ 部会で話し合ったことをそのまま活かしていきたい。
・ 地域とのつながり「知ってもらう」を進めていきたい。
・ すぐにでもできるものもあると思うので先生たちと話しながら進めたい。
・「行くところがない」地域との教育力を高める。地域と連携して進めていきたい。
・ あんぜん　地域の防災の体制の情報をしっかり知っていきたい
・ 子どもたちの住んでいる場所とハザードマップの把握については早急に洗い出ししていく
・ 学校間交流も進めたい。

６事務連絡 （副校長）

・ 次回は令和8年11月6日（金）予定している。9:30～校長室。
・ 今日のお菓子は「けやきの里」 ・●より　コラボセット予約販売している。